

令和3年
2月26日

病害虫発生予報 3月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

農薬は、専用の保管庫に鍵をかけて適切に管理しましょう。

< 目次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

ナシ：黒星病	1
イチゴ：ハダニ類	1
促成ピーマン：斑点病	2
促成トマト・促成キュウリ：灰色かび病	2
春レタス：菌核病	3
サツマイモ基腐病に注意しましょう①	3
水稻における紋枯病の防除対策について	4

【その他の病害虫】

イチゴ、促成ピーマン、半促成ピーマン、促成キュウリ、春レタス、春ハクサイ	5
--------------------------------------	---

II. 今月の気象予報 6

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :0299-45-8200

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/>



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

ナシ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 令和2年10月下旬におけるナシ黒星病秋型病斑の発病度は4.8(平年値0.8)と平年より高く、発生地点率は83%(平年値62%)と平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 秋型病斑上に形成された分生子は、降雨により枝を流れ落ちて鱗片に感染し、翌年の伝染源となる。そのため、露地赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例に記載された催芽～萌芽期(3月下旬)の薬剤防除を確実にを行う。
- ② 秋型病斑を生じた落葉上に形成された子のう胞子は、翌年3～5月にかけて降雨の度に飛散する。そのため、今からでも落葉を集めて土中深く埋めるなどして、伝染源を減らす。
(令和3年2月26日発表、病害虫速報No.7参照)

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、寄生葉率(本年値22.5%、平年値17.3%)は平年並～やや高く、発生地点率(本年値60%、平年値61%)は平年並である。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を使用する。

促成ピーマン

1. 斑点病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、発病度*（本年値 14.5、平年値 5.0）は平年より高く、発生地点率（本年値 50%、平年値 48%）は平年並である。

※発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、整枝、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ③ 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を使用する。

促成トマト・促成キュウリ

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、促成トマトにおける発病株率（本年値 3.6%、平年値 2.6%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 22%、平年値 23%）は平年並である。
- ② 2月下旬現在、促成キュウリにおける発病株率（本年値 2.2%、平年値 0.4%）、発生地点率（本年値 27%、平年値 6%）はともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、暖房、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 罹病部や幼果に残った花弁はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 薬剤散布は、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。

春レタス

1. 菌核病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県西地域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、発病株率(本年値 2.8%、平年値 1.2%)、発生地点率(本年値 40%、平年値 20%)ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、換気によりトンネル内の湿度を低く保つ。
- ② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。また、薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にも届くよう、十分な量で丁寧に行う。
- ③ 発病株は、菌核が形成される前に圃場外に持ち出し、適切に処分する。

サツマイモ基腐病に注意しましょう①

本病は、平成 30 年に沖縄県で初めて発生が確認され、その後、九州地方を中心に発生が拡大しています。今年度は、新たに高知県や静岡県、岐阜県等において発生が確認されています。現在のところ、本県では本病の発生を確認しておりませんが、防除が難しく被害が拡大するおそれがあることから、発生を警戒しています。

被害を抑えるには、侵入防止や早期発見による発生拡大の防止が重要になります。今月号から数回に渡り、作業中の注意すべきポイントについて記載しますので、侵入防止や早期発見による拡大防止にご協力をお願いします。

対策としては、他のカビ(糸状菌)による病害と同様な予防が重要です。

- ・発生地域から種イモや苗を持ち込まないようにしましょう。
- ・苗床への種イモ伏せこみ作業の際、種イモは健全なものを使用しましょう。
- ・定期的にウイルスフリー苗を購入し、種苗を更新しましょう。

なお、育苗中は、苗床での生育を観察して異常が無いか十分に注意し、地際の茎が黒変する等の感染が疑われる株があった場合は、近くの地域農業改良普及センターまたは病虫害防除所にご連絡をお願いします。

(サツマイモ基腐病に注意！ 病虫害防除所 HP 掲載チラシ参照)





水稻における紋枯病の防除対策について

近年、病虫害防除所が調査している水稻圃場において、紋枯病の発生が多い傾向にあります。紋枯病は、イネの病斑上に形成された菌核が圃場にとどまり次作の伝染源となるため、毎年同じ圃場で発生しやすい傾向があります。昨年、発生が多かった圃場では特に注意して対策を行いましょう。

[特徴]

前年の被害株や畦畔等の罹病雑草に形成された菌核で越冬し、伝染源となる。菌核は代かき時に水面に浮上し、株元に漂着する。気温が上昇し、株間の湿度が高くなると、菌核から発芽した菌糸が伸長して葉鞘内に侵入し始め、楕円形病斑をつくる。本病にかかると、下葉からしだいに枯れ上がり、稲の茎が弱くなって倒伏しやすくなる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 代かき時の浮遊物に菌核が混入しているので、畦畔沿いにたまったごみを取り除き、適切に処分する。
- ② 常発圃場では育苗箱施用剤を使用する。
- ③ 窒素肥料の多用を避け、過繁茂にならないようにする。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや少ない	2月下旬現在、平年並～やや少ない発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在、平年並～やや多い発生である。
	アブラムシ類		
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：少ない	2月下旬現在、平年より少ない発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並の発生である。
半促成ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並の発生である。
	アザミウマ類		
促成キュウリ	べと病	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並の発生である。
	うどんこ病	発生量：やや少ない	2月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在、平年並～やや多い発生である。
春レタス	腐敗病	発生量：やや多い	2月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
春ハクサイ	白斑病	発生量：平年並	2月下旬現在、平年並の発生である。
	べと病		

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 2月27日から3月26日)

気象庁(2月25日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	10	20	70
降水量	関東甲信全域	10	30	60
日照時間	関東甲信全域	60	30	10

[概要]

期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<1週目の予報> 2月27日(土曜日)から3月5日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率70%

<2週目の予報> 3月6日(土曜日)から3月12日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率70%

<3週目から4週目の予報> 3月13日(土曜日)から3月26日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率60%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類^{*}(FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(令和2年4月24日発表)の防除所レポート参照